



教育目標は「ひろい視野 たくましい創造力 ゆたかな感受性」

1847年、京都に「学習院」として開講。1877年に東京へ移転し、華族学校として開設しました。その後、宮内省所轄の官立学校となり、大正期には中等科(5年)・高等科(3年)という8年制を採用。学生生徒の個性と自由を尊重し、視野の広さを養う教育を、創立当初から一貫して続けています。2016年には、52年ぶりとなる新学部、国際社会科学部が設置され、国際的に活躍できる人材の育成を目指します。



法学部、経済学部、文学部、理学部、国際社会科学部(2016年4月開設)
所在地/東京都豊島区目白1-5-1 創立/1847(弘化4)年



「日本を学び、世界を知り、英語で伝える」教育で、 グローバルに活躍できる女性を輩出

「伝統と新しさ」「日本と世界」「小規模と多様な選択」—これら、一見対立するように見える要素をうまく融合して、他にはない独自の魅力と特色を生み出しているのが学習院女子大学です。多彩な開講科目や体験型の海外研修などユニークで先端的な教育プログラムにより、21世紀の社会において求められる「日本の文化や伝統を深く理解し、相手に伝える力」と「海外の文化の本質を理解する力」を備えた人材を育成しています。



国際文化交流学部
所在地/東京都新宿区戸山3-20-1 創立/1847(弘化4)年



リベラルアーツの伝統を 継承する5学園

学習院大学 / 成蹊大学 / 成城大学 / 武蔵大学 / 甲南大学 / 学習院女子大学

教養を伴う専門性や革新を生み出す力、コミュニケーション力の育成など、総合的な人間力を養う「リベラルアーツ」。その伝統を受け継ぎ、現代に発展させてきた5つの学園があります。明治から昭和初期に、各界で強いリーダーシップを発揮できる人材を育てた旧制高等学校をルーツに持つ、それぞれの大学の魅力を感じてください。



伝統の少人数教育を継承 「教養ある豊かな人間性」で時代をひらく

1912年、教育者・中村春二によって東京・池袋に設立された成蹊実務学校を源流とし、「人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を掲げ、「少人数による個性尊重の人格教育」を行ってきました。1924年に東京・吉祥寺に移転し、旧制高等学校を創設。リベラルな学風、学生一人ひとりと向き合う教育を受け継ぎ、現在は、4学部を擁する総合大学へと発展しました。



経済学部、法学部、文学部、理工学部
所在地/東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 創立/1912(明治45)年



個性尊重と少人数教育の環境のもと 「独立独行」の人材育成をめざす

「人生は真・善・美を理想とすると言われるが、学校は真理行われ徳が通るまた美的の所でありたい。」これは旧制成城高等学校第一回入学式で創立者・澤柳政太郎が述べた言葉です。まもなく創立100周年を迎える現在、広い視野と高度な教養、豊かな個性を持ち、未来を切り開く「独立独行」の人材育成は、21世紀の成城大学が求める「第一義」として受け継がれています。



経済学部、文芸学部、法学部、社会イノベーション学部
所在地/東京都世田谷区成城6-1-20 創立/1917(大正6)年



伝統のゼミ教育で「グローバル市民」を育成 世界を生き抜く力を磨く

東武鉄道など多くの鉄道事業をはじめ、政財界で活躍した根津嘉一郎(初代)が1922年に創設した日本初の私立7年制高等学校である旧制武蔵高等学校が前身です。「世界に雄飛するにたえる人物」を建学の理想のひとつに掲げ、伝統のゼミ教育を軸にさまざまな取り組みを推進。多文化共生や他者理解の視点を持った「グローバル市民」として、社会で活躍できる人材の育成を実践しています。



経済学部、人文学部、社会学部
所在地/東京都練馬区豊玉上1-26-1 創立/1922(大正11)年

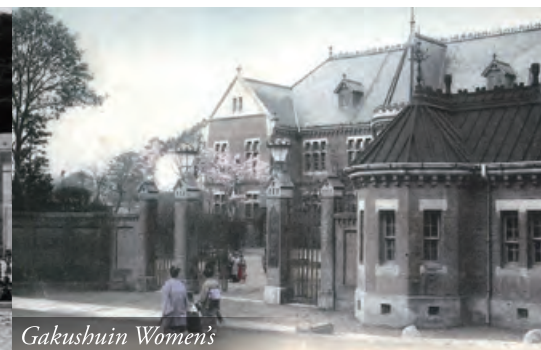


国際都市・神戸にある “ミディアムサイズ”の総合大学

1919年に甲南中学校を開校し、高等学校へと発展したのちに大学を設立。大学の母体である甲南学園の創立100周年となる2019年を目前としている今、「人物教育の甲南」を掲げ、長い歴史と伝統に培われたあらゆる資質を活かし、学生一人ひとりの持つ能力を見出し、引き出す教育を実践。「ミディアムサイズ」の規模を活かしたさまざまな教育を展開しています。



文学部、法学部、経済学部、経営学部、マネジメント創造学部、理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部
所在地/兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1 創立/1919(大正8)年



5学園進学相談会

大学フェア 6/18(土) 13:00▶18:00

in TOKYO

各線「池袋駅」東口より徒歩約8分。東京メトロ「東池袋駅」6・7出口より徒歩約3分。



5 学園関連イベント

① 大学個別説明ブース
個別説明ブースを設置。各大学の職員や現役大学生が相談に応じます。

② 13:50~14:40(予定)
NPO法人NEWVERY 倉部史記氏による講演
在生によるパネルディスカッション
各大学の現役大学生がキャンパスライフについて語ります。

③ 学生ナビゲーションコーナー
各大学の現役大学生とじかに話ができます。

その他の進学相談会

夢ナビライブ 東京会場
7/9(土) 10:30▶17:00
東京ビッグサイト
※甲南大学を除く

夢ナビライブ 大阪会場
6/18(土) 10:30▶17:00
インテックス大阪
大学フェア 大阪会場
7/10(日) 11:00▶16:00
グランフロント大阪
ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンター



現代へ受け継ぐべき リベラルアーツの伝統

グローバル化が加速する現代社会。次代の担い手を育てる大学教育には、国際ビジネスの現場はもとより、社会の仕組みづくりをもリードできる素養のある人材の育成が求められている。そうした背景を受けて、教養や良識、協調性、行動力など総合的な人間力を養うリベラルアーツ教育への関心が集まっている。ここでは、日本で最初にリベラルアーツ教育を行ってきた旧制高等学校の存在にスポットをあて、その歴史を紐解きながら、現代教育との関係性についても紹介していきたい。

各界のリーダーを輩出した 旧制高等学校

まず知っておきたいのは、戦前の教育体系は現在の単線的な教育体系(6・3・3・4)ではなく複線的な体系で、かつ何度か再編が行われたということである。旧制高等学校は“高等学校”という名称だが、現在の高等学校とは全く別のものであった。当時教育機関の頂点にあったのは帝国大学である。この時代の帝国大学は官吏や学者、研究者を養成する学府として位置づけられており、明治維新以来、国として発展していくためのリーダー育成が行われていた。旧制高等学校は、帝国大学への入学が実質無条件で認められており、帝国大学の予科としての接続機能を果たしていたのである。つまり、帝国大学で専門教育を学ぶための準備機関が設けられていたとイメージするとわかりやすいであろう。

旧制高等学校の変遷は、1894年の「第一次高等学校令」と1918年「第二次高等学校令」の前期と後期に分かれる。前期のトピックは「第一次高等学校令」により、それまでの高等中学校が高等学校へと改められ、政府管轄のもと東京の第一高等学校をはじめ、全国に第二から第八まで設置されたことである*。これらは旧制高等学校の象徴的存在としてナンバースクールと呼ばれた。「第二次高等学校令」では、それまでナンバースクールのみであった旧制高等学校が公立、私立にも認められ、新潟、松本、山口、松山の官立高等学校の設立を皮切りに、私立では武蔵、甲南、成蹊、成城が誕生した。これら中高一貫の私立7年制高校と宮内省管轄で8年制の学習院は、それまでのナンバースクールとは一線を画し、新しい旧制高等学校像を創り出している(次項コラム参照)。

*第一高等学校から第五高等学校までは1886年に公布された「中学校令」によって設置。戦後は以下の新制大学として再出発している。第一:東京大学、第二:東北大学、第三:京都大学、第四:金沢大学、第五:熊本大学、第六:岡山大学、第七:鹿児島大学、第八:名古屋大学。

旧制高等学校が掲げた 「教養教育」と「語学教育」

旧制高等学校に進めたのは同世代のうち約1%程度といわれ、大変な「狭き門」であった。では、旧制高等学校で学生はどのような教育を受けていたのだろうか。

特色としてまず、科目の多様性が挙げられる。文系、理系を問わず、古文、漢文、歴史、外国語、文学、倫理学、論理学などのいわゆるリベラルアーツ教育が展開されたが、これは「教養」を幅広く身につけ、指導者としての人格を若いうちから涵養することを目的としていた。また、人格形成に大きく寄与したのものとしては「隠されたカリキュラム」とも呼ばれた寮生活がある。そこでは、デカンショ*をはじめとする西洋の哲学書や思想書をはじめ、万葉集などの日本の古文まで、古今東西の書物を読みふける生活が日常であった。有為の若者がひとつ屋根の下で寝食を共にし、それぞれの持つ意見や信念を活発に議論する中で、リーダーとしての資質が自然と磨かれていったのである。

また、語学教育は、1886年の中学校令から外国語教育の重視が掲げられ、1950年に旧制高等学校制度が廃止されるまでは徹底された。戦前の専門教育では、原書を教科書とすることが多く、欧米からもたらされる教養や知識を吸収するためには、まずその国の語学を学ぶことが必須となっていた。学科課程に組み込まれる外国語には、英語、ドイツ語、フランス語などがあり、全授業時間の3分の1以上を占めていた。現在もグローバル人材育成の必要性が語られているが、100年以上も前につくられた旧制高等学校では、すでに世界に開かれた思考を養う教育が行われていたのである。

*デカルト、カント、ショーペンハウアーの略。

いま、見直される リベラルアーツ教育

戦後、旧制高等学校制度はGHQによって廃止され、日本の教育体系はそれまでの複線型教育から単線型教育の6・3・3・4制に整備されている。旧制高等学校は官・公立、私立のほとんどが新制大学として再編され、それまで行われてきたリベラルアーツ教育も「一般教養科目」として形を変えた。しかし、一般教養科目はより専門的な実学を求める学生達の理解を得られず、1991年には大学設置基準の大綱化により廃止。ナンバースクールをはじめ、学習院や、私立7年制高等学校を前身とする武蔵、甲南、成蹊、成城などの大学は、伝統を重んじリベラルアーツを続けたが、ほとんどの大学ではカリキュラムの自由化が推し進められ、専門教育を選択する学部・学科制を重視した。その結果どのような状況が生まれたかという、高い専門性はあっても、社会で新たな課題に直面したときにその力を十分に生かしきれないという事態である。

いま、なぜリベラルアーツ教育が再び注目を集めているのか。それは、さまざまな問題と直面している社会、そしてグローバル化の波に乗らなければならない産業界からの要請でもある。大学全入時代に突入し、大学教育のあり方、ひいては大学の存在意義そのものが問われているという側面もあるだろう。「勉強はできるが、物を知らない」学生達を社会に送り出してきた専門重視の教育スタイルを見つめ直し、旧制高等学校が行ってきた「教養をバックボーンに次世代のリーダーを育てる」教育が改めて注目されるのは、時代の自然な流れといえるのではないだろうか。

旧制高等学校のDNAを これからの時代を担う学生に

アップルインコーポレイテッドの創始者であるスティーブ・ジョブズはこう言っている。“The reason Apple is able to create products like the iPad is because we've always tried to be at the intersection of technology and the liberal arts.”「アップル社がiPadのような製品を創造できるのは、テクノロジーとリベラルアーツが交わる部分にこだわってきたからである」。

経営、経済、IT、開発、研究、医療……。これからの時代、どんな専門分野においても教養なくして人々の心を動かすようなイノベーションは起こせない。つまり、リベラルアーツとは「人を幸せにするための総合的な人間知」といい換えることができるのではないだろうか。

近代化の真っ只中にあった明治から昭和初期は、日本が大きな「変化」を迫られた時世であったといえよう。それまでの経験則だけでは対応が困難な混沌とした時代の中で、各界を牽引する強いリーダーシップを発揮できる人材を育てた旧制高等学校は、現代の教育につながる深い足跡を残している。旧制高等学校から新制大学へと移行したあとも、教養を伴った専門性、革新を生み出す判断力と統率力、グローバルに生き抜くための人間力とコミュニケーション力の育成など、伝統的な考え方はいまでも変わらず脈々と受け継がれている。教養重視へと転換し、大学によって特色のある方針が打ち出されているいまこそ、歴史に裏打ちされた「リベラルアーツの伝統」という視点で大学を俯瞰してみたいだろうか。

Column

一貫教育とスマートなスタイルが特徴だった5学園

第二次高等学校令によって全国に大增設が行われた旧制高等学校。「中高一貫の7年制を本体とする」という勅令のもと、尋常科4年・高等科3年の7年制高等学校が設立された。東京、学習院*(以上、官立)、富山、浪速、東京府立(以上、公立)、武蔵、甲南、成蹊、成城(以上、私立)である。一貫教育の伝統は、戦後新制大学となった私立5大学にも受け継がれ、現代の中高一貫教育のルーツとなっている。これら

5学園では、旧制高等学校生の象徴的スタイル「バンカラ」(学生服、破帽、下駄、マント)を継承せず、紳士的でスマートな文化を持っていた。また、イギリスのパブリックスクール、ドイツのギムナジウムを範としており、単なる物知りではなく、自分で考え創造できるリーダーを育成することに力を入れていた。それまでの旧制高等学校の考えから、現代の考え方にも通じる「新しいリベラルアーツ」の形をつくり出している。

*学習院は8年制。



「鉄道王」と呼ばれた実業家根津嘉一郎(初代)が設立した武蔵高等学校



実業家で文部大臣も務めた平生八三郎が設立した甲南高等学校



大正自由教育の旗手といわれた教育者・中村春二が設立した成蹊高等学校

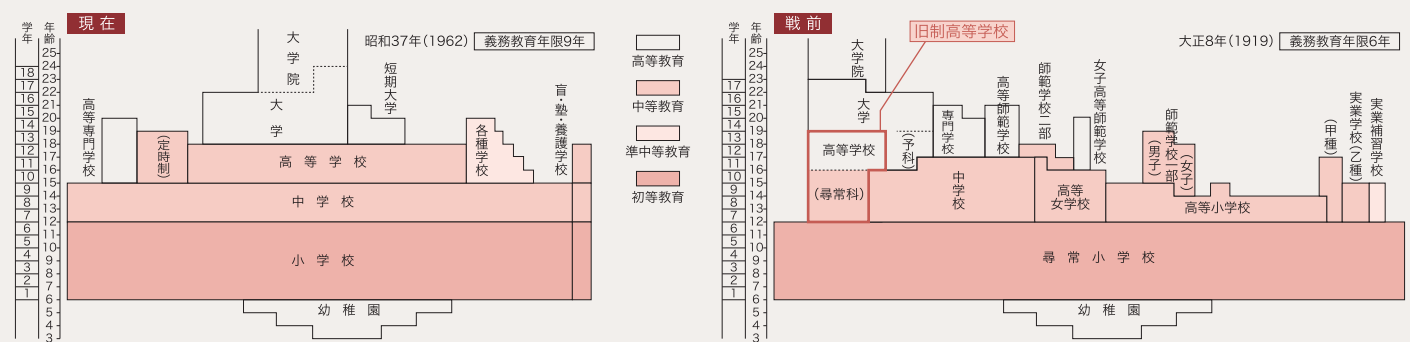


第一高等学校の校長経験もある澤柳政太郎が設立した成城高等学校



宮内省直轄で中等科5年、高等科3年の8年制を採用した学習院

現在と戦前の学校制度の比較



NPO法人NEWVERY
高大接続事業部ディレクター
倉部史記 氏

現代社会で必要とされる力を養う「リベラルアーツ教育」

リベラルアーツは、単なる雑学的な教養とは一線を画すものです。「リーダー養成」という、具体的・現実的なミッションに基づく、伝統ある教育の仕組みなのです。昨今では、政治やビジネスの世界をはじめ社会のあらゆる分野、大小さまざまな規模の組織で、リーダーシップが必要とされています。現代のリベラルアーツ教育には、そういった人材を育成することが期待されています。そもそも、旧制高等学校では、教養や良識、協調性、行動力など総合的な人間力を養うリベラルアーツ教育が行われていました。その「リベラルアーツの伝統」が、学習院、成蹊、成城、武蔵、甲南の5学園に受け継がれています。